

だいせん市議会だより

あなたのギカイ

令和6年2月1日 第75号 12月定例会の内容を分かりやすくお伝えします。

産業建設常任委員会 所管事業調査



CONTENTS

- こんなことが決まりました…………… P 2
- 聞いてみたいこんなこと…………… P 4
- 所管事務調査…………… P11
- 【特集】ギカイのしごと…………… P15
- きかせて！あなたのミライ…………… P16

第4回定例会 議案審議

大仙市の

こんなことが決まりました。

第4回定例会 会期23日間 11月27日～12月19日



第4回定例会

第4回定例会

専決処分報告	1件
条例案	10件
単行案	11件
補正予算案	13件
陳情	5件
意見書案	3件

今号では
この中から
4つを **Pick up**

全ての議案名と審議結果は、大仙市議会ホームページをご覧ください。



〈議案第176号〉 令和5年度大仙市一般会計補正予算（第11号）

Pick up 1

戸籍などへの氏名の振り仮名の記載およびマイナンバーカードへのローマ字表記が順次行われます。

令和5年6月9日の「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律」の公布に伴い、住民票や戸籍等に氏名の振り仮名を記載することおよびマイナンバーカードへのローマ字を表記する必要があることから、関係システムの改修を行います。

こんな質問が出ました。

マイナンバーカードについて、氏名の振り仮名やローマ字の記載が予定されているとのことだが、この作業手順はどのようなものになっているのか。

現時点の情報では、マイナンバーカードの券面変更は、改正法の施行日後に新規発行されるものから行われ、振り仮名等の記載のためのマイナンバーカードの再発行は行わないとのことである。氏名の振り仮名については、氏名の横にカタカナで記載し、ローマ字については、希望する方の

追記欄へ記載する案が出ているようだが、まだ決定していない。いずれ、戸籍に氏名の振り仮名を記載してからの作業となる。

これから（イメージ）



※氏名の横にフリガナ表記を記載する。
※希望者に対して、氏名のローマ字や西暦生年月日を記載する。

デジタル庁ホームページより引用（一部加工）

Pickup 2

農業資材コスト上昇分の一部に対し、市独自の補助を行います。

農業肥料、農薬、燃料などの農業資材コストの上昇に加え、高温障害による作物の品質低下などの要因により、農業収益の減収が生じていることから、農業資材コスト上昇分の一部に対し、補助を行います。

こんな質問が出ました。

に作付けしている牧草についても、交付の対象となる。

Q

交付対象者は「農作物販売実績がある農業者」となっている。直売所にのみ販売している農家さんもいる。販売先について、条件はあるのか。

A

販売先の条件はなく、直売所に販売している農家であっても、他の要件である、令和6年度営農を計画していて、市税の滞納がなければ今回の交付対象者となる。

Q

交付対象作物に牧草とあるが、転作田での作付けのみが交付対象となるのか。

A

転作田だけではなく、採草地



Pickup 3

有害鳥獣の被害防止対策等に係る追加の補助金交付を行いました。

今年度、ツキノワグマによる人身被害や捕獲頭数が過去最多となりました。市内の猟友会で構成する大仙市鳥獣被害対策実施隊が行う捕獲や被害調査報酬の不足分のほか、箱わなの修繕や新規購入経費などを大仙市鳥獣被害対策協会へ追加交付しました。

Pickup 4

大曲墓園に増設した区画の永代使用料を定めました。

大曲墓園の区画を増設し、永代使用料を定めるものです。
（令和6年3月1日施行）

区 分…規制墓地

区 画 数…11基

面 積…4平方メートル

永代使用料…37万円

適 用…碑石なし

聞いてみたいな

こんなこと



一般質問

一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な内容について、市議会議員が市に対して質問を行います。今回の一般質問であなたの生活に関わる内容がありますか？

質問議員 11人 質問項目 22件

一般質問の全ての内容を動画で視聴できます。各議員顔写真の下にあるQRコードを読み取り、ご覧ください。

あきたこまちR導入と全面切り替えについて



佐藤 文子
(日本共産党)



Q 県からあきたこまちR導入と全面切り替えに関する情報提供と意見聴取はあったのか。

A 8月25日に開催された全県の説明会で令和7年からあきたこまちRへ全面切り替えとなることの説明を受けている。また、9月19日には、県の農林政策課長等が来庁し、直接説明を受け、市として承知した旨を伝えるとともに、県に生産者、消費者への周知の徹底をお願いした。

Q マンガン吸収が抑制されたあきたこまちRは、美味しく安心して食べ続けられるお米なのか。

A マンガンは子どもの成長に必須の要素であり、あきたこまちRへ切り替わることで、米からの摂取量が3分の1になるとされている。



生産者向けリーフレット
(秋田県ホームページより引用)

大仙市見守りシール交付事業について



高橋 徳久
(だいせんのかい)



Q 事業のチラシを全戸配布したかどうか。

A 「どこシール伝言板」の名称で、令和3年度から事業を開始しており、市のホームページやFMはなび、各医療機関、市内循環バス等で周知を行っている。QRコードのシールを貼り付けたものを身に付けている方を発見した市民が、どのような対応をしたらよいのかという情報が十分に伝わっていない状況もあったことから、今年度、市民向けに発見時の対応に関するチラシを作成したところである。



どこシール伝言板のチラシ
(市ホームページ掲載)

る。さらなる普及啓発のため、チラシの全戸配布については準備を進めていく。

Q 家族の方も利用申請できるとのことだが、一人暮らしの高齢者がシール交付を希望した場合はどうなのか。

A 家族等の保護者から利用申請をお願いしているが、これが難しい場合は状況に応じて、支援している方やケアマネージャーが申請代行可能となっている。また、遠方にお住まいの家族であっても、高齢者包括支援センターへ相談いただければ、申請可能である。

この他、路面標示施工用ライナーについて質問しました。

災害ケースマネジメントについて



秩父 博樹
(公明党)



Q 被災者生活再建支援制度が適用されない場合の市の支援は。

A 被災家屋等への対応については、住宅リフォーム支援事業により支援している。

Q 住まいや生活、就労など、複合的な悩みに対し、伴走型で生活再建を後押しする「災害ケースマネジメント」を導入すべきでは。また、「災害ケースマネジメント」を機動的に展開していくため、専門家チームの窓口設置の体制整備が必要ではないのか。

A 市の関係課所室および社会福祉協議会、医療機関などの関係機関と情報共有を図りながら、スマートフォンを導入を進めたい。具体的には、高齢者包括支援センターで定期的に実施している「地域包括ケア会議」

に参加し、災害発生時や発生の対応手段や連絡体制等の情報共有を行うなど、まずは今ある資源を活用する方向で取り組みたいと考えており、「災害ケースマネジメント」を展開するための体制や専門家チームの設置については、その後の課題ということで検討してまいりたい。

この他、個別避難計画の推進について、被災家屋認定調査の官民連携(損保会社)の推進による迅速な認定について質問しました。



内閣府ホームページより引用

屋内遊び場施設整備事業について



青柳 友哉
(大地の会)



Q 屋内遊び場施設整備事業について、子育て支援や子ども支援だけにフォーカスして施設単独で考えるのではなく、もっと広い視点（まちづくりや地域経営、エリアの価値向上という視点）からの検討をもっと真剣にすべきではないか。子ども支援、公園、観光、総合政策（まちづくり、公民連携）等の各分野から職員を集めたプロジェクトチームをつくり、分野横断的に基本計画案をブラッシュアップすべきではないか。

A 施設の整備に当たり、周辺施設との連携を図る上で、庁内の関係部所と協同で事業を進めていくことが重要と捉えており、健康福祉部が、企画部、観光文化スポーツ部、建設部などの関係部所と個別に協議を重ねた上で、最終的には「子育て支援制度等検討会議」で全庁的なコンセンサスを得る形としている。今後、基本計画案の内容の検討は、さらに役割を明確化するために、子育て支援制度等検討会議の分科会を組織し行う。

ライドシェアを活用した地域公共交通の充実について



山谷 喜元
(大地の会)



Q ライドシェアの導入に直ちに対応できるような市の体制の強化を望むが、当局の考えを伺う。

A 市の公共交通体系は、地域の交通事業者や地域協議会の代表者で構成する「地域公共交通活性化再生協議会」において、利用者や地域住民の意見を伺い策定した「地域公共交通計画マスタープラン」のもと、バスやタクシー事業者との連携により、地域全体の交通インフラを支えている。現時点で、ライドシェアの導入を積極的に検討する段階にはないが、運転手不足を解消し、高齢化社会における移動手段を確保するとともに、移動環境のさらなる充実を図るためには、既存交通システムとの調和や連携を図りながら、活用も視野に入れる必要があると考え

る。国の議論を注視しつつ、次期地域公共交通計画の策定に当たり、GXやDXの観点も取り入れながら、より利便性が高く持続可能な交通ネットワークの構築に向け、再生協議会において十分に議論を重ねたいと考えている。

この他、文化財の保存・活用の一層の推進について質問しました。



る。国の議論を注視しつつ、次期地域公共交通計画の策定に当たり、GXやDXの観点も取り入れながら、より利便性が高く持続可能な交通ネットワークの構築に向け、再生協議会において十分に議論を重ねたいと考えている。



市ホームページ掲載

ライドシェア…一般の人が、自家用車を用いて有償で、他人を運送するサービス。

減り続ける就農者における 取り組みについて



小笠原昌作
(新政会)



Q

多様な担い手の確保と育成環境を早急に整える必要があるのではないか。

A

市では、東部・西部両研修施設で複合経営に取り組みのための栽培技術指導や就農に関する研修を行っている。また、県ではアグリフロンティア育成研修により、将来の担い手の確保・育成に努めている。現在、市では、多様な担い手の確保の観点から、研修対象年齢引き上げを検討している。また、担い手の営農環境整備においては、効率的な農業を可能とする営管ほ

場整備事業や市単独の小規模集落元気な地域づくり基盤整備事業等の推進、クボタグループとの連携協定による営農の省人化・省力化を可能とするスマート農業

の取り組みも始めている。今後も、地域資源を最大限活用し、市全体が活気づく

裾野の広い産業構想として策定した「農業と食に関する活性化基本構想」および「第4次農業振興計画」に基づき、担い手の確保・育成や営農環境の整備を図りながら、本市農業の持続的

発展を目指していく。

この他、除排雪体制の充実について質問しました。

Q

火災警報器の設置率向上について



佐藤 隆盛
(市民クラブ)



火災警報器の設置率向上に向け、全戸調査を行うことになっているが、進捗率および現在の設置率は。

A

令和5年10月時点での設置率は78・1パーセントであり、県平均は6月1日現在で84・8パーセントである。現在の市の世帯数

3万1600世帯のうち、調査済みは2万5600世帯で、6000世帯ほど未調査となっている。全戸調査については、6月の定例会で答弁したが、7月の大雨災害などもあり、調査業務を見合わせざるを得なかったことから、現在のところ未実施となっている

が、広域消防から年2回報告される設置情報をもとに、住宅地図の落とし込み作業を行っている。参考とした福井県の取り組みでもあるこの作業はほぼ完了し

ている。今後2カ年をかけて自主防災組織および各地区消防団による未調査ならびに未設置世帯への訪問調査を実施し、設置状況の全戸把握に努めるとともに、並行してさらなる設置促進に努めていく。

この他、大仙市に関わる山道・路線の現状と対応について質問しました。



市の人口戦略について



金谷 道男
(大地の会)



Q 長期的な人口安定を図るため、市内の一次生活圏あるいは地区単位に、住民、市職員、各種団体、企業等が一体となって、現状認識、具体的な人口ビジョンの共有とその実践のため、戦略を策定して実行に向けて進むべきではないのか。

A 令和元年度に県の事業として県内5市町を対象に、モデル地区を設定した上で、人口の分析やワークショップが実施されているが、身近な生活圏単位で現状を知るとともに、増やすべき人口が見える化されることに



市ホームページ掲載

より、地域の当事者としての自覚や主体的な行動につながるものが期待できるものと承知している。より効果的で実効性の高い手法を研究しながら、引き続き各支所と連携し、情報発信の継続・強化に努め、地域づくりの主役である市民の皆さまがいきいきと活動し、将来に希望が持てるまちづくりに取り組んでいく。

この他、文化財保護について質問しました。

大仙市の産後ケアについて



戸嶋貴美子
(だいせん会の会)



Q 本市が行う産後ケアの活動実績と産後ケアの具体的な支援策を伺う。

A 令和2年度より産後医療機関に委託し、宿泊型、日帰り型、訪問型を開始している。令和3年度は0人、4年度は日帰り型の利用が1名の利用であった。

Q 今後産後ケアを立ち上げた産科医療機関ほか、地域団体等を本市で応援し連携できないか伺う。

A 現在、委託しているのは1医療機関に限られたサービス内容となっている。産科医療機関や地域団体等で応援のご希望があった際には話を伺った上で、連携体制を構築し、委託施設の拡充を目指していく。

この他、子育てサポートについて質問しました。

A 母子手帳アプリ「母子モ」は、多言語に対応している。通訳が必要な外国人の方には、関係課と連携を取りながら、通訳の方に入っている。ただ、通訳の方に入っている。

この他、文化財保護について質問しました。



母子モのチラシ
(市ホームページ掲載)

ワクチン接種について



利恵 挽野
(公明党)



Q 令和6年度で終了する子宮頸がんキャッチアップ接種に関し、未接種者に対して今一度周知するべきでは。

A キャッチアップ対象者の子宮頸がんワクチン接種は、1年以内に3回接種することが推奨されている。令和5年10月31日現在の接種状況は、対象者が23388名、うち3回まで接種を終えた方が799名であり、まだ未接種者が多い状況である。キャッチアップ接種の最終年度となる令和6年度は、子宮頸がんの発症や死亡数の減少を図るために、

さらなる接種率向上を目指し、未接種者に対して個別の通知による接種勧奨を行う。

Q RSウイルスワクチンが市場に流通されるようになった場合、市ではワクチン接種に助成を考えているのか。

A 令和5年9月に厚生労働省が承認した60歳以上の方が対象のRSウイルスワクチンについては、現時点では流通していないため、助成の検討は行っていないが、今後の国の定期予防接種化の動向を注視し、対応したと考えている。

この他、子育て家庭への支援について質問しました。

J A秋田おぼこの合併離脱と農家支援の方向性について



輝男 本間
(新政会)



Q 10月中旬頃、J A秋田おぼこの組合長が来庁し、J A合併協議離脱の報告があったようだが、どのように報告を受けたのか。

A J A秋田おぼこの組合長等が面会に訪れ、9月28日の理事会において協議会からの離脱を正式決定した旨の報告を口頭で受けた。他団体で慎重に協議を重ね正式決定された事項であり、その事実を受け止めた次第である。

あると考えている。現在、今般成立した国の経済対策における「重点支援地方交付金」を活用した支援策を検討中であり、仙北市、美郷町の動向も注視しながら、年度内の支払いに向け支援内容の詳細を詰めていく。

この他、予算執行状況の確認と国の補正予算への対応について、下水道事業の現状と将来的方向について質問しました。

Q 農作物の高温障害による農業収入減少に対する市の支援は。

A 令和3年度の主食用米次期作支援事業、昨年度の農業用肥料高騰対策支援事業といった市独自の支援策の実績も踏まえながら、農業者の次期作に対する生産意欲を喚起する支援策が必要で



キャッチアップ接種リーフレット
(厚生労働省ホームページより引用)



キャッチアップ接種…積極的勧奨の差し控えにより、接種機会を逃した方を対象に実施する予防接種。

RSウイルス感染症…RSウイルスの感染による呼吸器の感染症。何度も感染と発病を繰り返す。2歳までにほぼ100パーセントの乳幼児が感染するとされている。

討論

第4回定例会では、陳情第33号「健康保険証廃止の中止について国に意見書提出を求める陳情」に対し、議員4名が討論を行いました。

反対討論

石塚 柏 議員（だいせんの会）

国はマイナナンバーカードと健康保険証を一体化するに当たり、発行済みの健康保険証を改正法施行後、最長で1年間有効とみなす経過措置を設けることや健康保険証廃止後、マイナ保険証を持つていない全ての方に、申請なしで資格確認書を交付することなどの対策を準備している。

国民にとって十分な移行期間を設け、被保険者の利便性と行政の手續きの効率化にメリットがあるため、2年後には現在の心配は杞憂に過ぎないものとなることを確信している。一体化廃止を見直したいとする陳情第33号提出は時期尚早であり、採択することに反対する。

反対討論

秩父 博樹 議員（公明党）

4月から全ての医療機関、薬局においてマイナ保険証を利用して受診ができるようになってきている。さらに、マイナ保険証を活用したデータヘルス推進で、国民の健康増進を推し進め、将来的に医療費削減効果がある。そして、健康寿命を伸ばすことや効率的な社会保障制度づくりを進めるためにも重要である。また、施設入所している高齢者等のマイナナンバーカードを取得できない方の保険診療については、資格確認書を発行し、今までと変わらず受けることができるとしている。陳情第33号については不採択すべきであり、反対討論とする。

賛成討論

佐藤 文子 議員（日本共産党）

マイナ保険証をめぐる続発するトラブルで、利用率は本格実施となった4月には6・3パーセントであったが、以降、毎月減り続け、10月には4・49パーセントになっている。このことは、マイナ保険証に対する国民の信頼が得られていない状況だと言っている。

国民の信頼は低く、医療現場に混乱をもたらさし、メリット感もあまり感じられないものであり、国民の7割以上が現行の国民健康保険証廃止に反対している。医療現場からも多くが現行の健康保険証継続を求めている。こうしたことから、陳情第33号に対して賛成する。

賛成討論

佐藤 隆盛 議員（市民クラブ）

秋田さきがけ新報に掲載された世論調査の結果によると、現在の健康保険証を来年秋に廃止する政府方針に関し、「撤回するべき」が41パーセント、「延期するべき」が31・4パーセント、「予定どおり廃止するべき」が24・6パーセントであった。世論調査とはいえ、このことをどう捉えるかである。数字が世論調査で出ている中で、大仙市議会としてどうなのかと感じた。大仙市議会の良識ある判断を求めたいと感じたところである。そういうことからして、この賛成意見を述べたところである。

第4回定例会賛否一覧

議案等名	議決結果	大地の会				だいせんの会				新政会			公明党	市民クラブ	日本共産党									
		鎌田 正	金谷 道男	大山 利吉	佐藤 育男	後藤 健	山谷 喜元	安達 成年	青柳 友哉	高橋 敏英	佐藤 芳雄	古谷 武美	石塚 柏	橋村 誠	高橋 徳久	戸嶋貴美子	渡邊 秀俊	小松 栄治	小笠原昌作	橋本 琢史	本間 輝男	秩父 博樹	挽野 利恵	佐藤 隆盛
陳情第33号 健康保険証廃止の中止について 国に意見書提出を求める陳情	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
意見書案第15号 健康保険証廃止の中止を 求める意見書	否決	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○

賛成者は○、反対者は●とします。議長は採決に加わりません。

教育厚生常任委員会所管事務調査

11月7日、大曲北保育園および第36期竜王戦七番勝負大仙対局の所管事務調査を行いました。

はじめに、大曲北保育園については、移転改築され、令和5年10月1日から保育を始めているとのことでした。敷地面積は4015平方メートルで、改築前に比べ2倍以上広くなり、建物構造は鉄筋コンクリートから木造に変更となりました。総事業費7億140万3千円で、認可定員は改築前から30人増え、140人とのことでした。

事業は計画どおりに進んでいるものの、初めての冬を迎えることや、行事等の実施で見えてくる課題もあると考えられるため、今後の運営を注視していく必要があると感じました。

次に、第36期竜王戦七番勝負大仙対局については、対局会場となる旧本郷家住宅設備の整備や関連イベントについて説明がありました。

※第36期竜王戦七番勝負第4局で藤井八冠が勝利し3連覇を達成したため、大仙市での対局はありませんでした。

(教育厚生常任委員会

委員長 山谷 喜元 記)



日本郷家住宅で説明を受ける



「大曲北保育園」の視察

産業建設常任委員会所管事務調査

11月13日、太田地域の農業施設等の現地視察を行いました。

はじめに農事組合法人「新興エコファーム」細川良喜代表より、大豆栽培の現状について説明がありました。大豆作付面積は現在20ヘクタールで、収穫ピーク時の乾燥・調整・選別の受け入れ能力が不足していることが課題だったそうです。今後転換作物として大豆は拡大していくことが予想され、高齢化等により担い手不足が懸念される中、地域の核として役割を担うべく、施設を整備したとのことでした。

次に、東部新規就農者研修施設内に秋田県立大学が設置したトマトの栽培ハウスの視察をいたしました。トマト栽培は夏秋栽培が基本ですが、実証ハウスでは空調システムにヒートポンプを使用することで光熱費を抑え、また、日照不足を補う方法として二酸化炭素発生装置を利用することで光合成を促進させ、周年農業に向けた試験を行っているとのことでした。

(産業建設常任委員会

委員長 挽野 利恵 記)



「東部新規就農者研修施設」の視察



「農事組合法人 新興エコファーム」の視察

市政懇談会でいただいたご意見・ご要望の回答について

6月23日から28日までに開催した、大仙市議会「市政懇談会」の回答についてお知らせいたします。いただいたご要望等のうち、市長へ文書で通知したものについては、各担当課から回答をいただいておりますので、こちらもお知らせさせていただきます。

※紙面の都合上、全ての意見を掲載できないため、一部抜粋して掲載しております。

【当日の回答】

No.	地域	いただいたご意見	回 答
1	大曲 (はなび・ アム・藤木・ 大川西根・ 四ツ屋)	広報誌など、必ず紙でなくてもデジタルの方が利便性のいい人いるのではないかと。選択制にしては。	行政協力員による配付の仕方や折り込みの書類もあるので、一律配付にご理解いただきたい。
2		共働きの親が多くなり、学童保育の時間をもう少し長くしてもらえないか。	学童保育利用は年々増えている。大仙市では19時まで延長できる。また、ファミリーサポート事業も利用してほしい。
3		子育てしながら会議に出るのは難しいが、託児スペースなどがあると参加しやすい。子育て世代にも広く周知してほしい。	本庁にキッズスペースができ、今後支所にも展開していく。充実に努め、周知に力を入れる。
4		公民館改築の順番等について	四ツ屋公民館は、コミュニティ会議を通じて陳情・要望があり、地域での積極的な議論で計画が進んだ。総意を持って要望してほしい。また、公共施設総合管理計画の中で調査し、計画されている。
5		詐欺の事例が多発している。電話やスマホに係る詐欺案件が落ち着かない。事例が出るたび、注意喚起してほしい。	注意喚起を引き続き行っていく。防犯講座もあるので、自治会や老人クラブの集まりで講座を活用するなど工夫をして、周知を図っていただきたい。
6		少子化対策として給食費の無償化を実施してほしい。大仙市に来てくれる人が増えるのではないかと。	親の事情で子どもに窮屈な思いをさせてはならない。全国的な流れも大きくなってきているので、実現に向け働きかけをしていきたい。
7		クマの出没が多くなっているが対策はあるか。	墓のお供え物や弁当の空き容器を放置しないよう注意喚起するとともに、クマの出没情報を一斉メールにて発信している。
8		災害時に大曲中学校が避難所となるが、水害の際は2階以上に避難することになっている。周りの浸水による孤立や備蓄状況が不安。	市内は最悪4.5メートル水没となる。そうならないよう堤防整備を進め、内水排除もしっかり行う。
9		職員削減について、効率だけでなく行政サービスへの影響も考慮し、バランスを取ることが大事ではないか。	合併当初は職員数も借金も多かったが削減してきていた。行政サービスの質を維持するためにはある程度は必要と考える。
10		各地域で花火が上がるようになった。花火産業構想事業について、大曲だけでなく地域全体で推し進め、一体感を持つことが必要ではないか。	大曲地域だけの花火ということではなく、市の花火大会として認識されるよう発信していく。
11	神岡	神岡中央公園の整備内容について、どのような設備を置き、その配置や広さはどのようになるのか。	今年計画し、来年設計、再来年に建設の予定。現在、計画の前段階の構想は出来ている。
12		福祉センターが解体されるので、農村環境改善センターを上手く活用したらいいのではないかと。	公共施設の在り方の考えについてはその通りなので、既存のものを活用していく。
13	西仙北	総合防災課から空き家や自治会館の雪下ろし、防火水槽の除雪を自治会で行うと補助金が出るとの話を聞いた。この10年間何ももらわなくてしまった。早速申請したいが、申請書類はあるのか。	私の方の自治会では10年ほど前から助成をいただいている。きちんと申請すれば防災備品ももらえるので、申請書により申請いただきたい。



西仙北会場



四ツ屋会場



藤木会場

No.	地域	いただいたご意見	回答
14	西 仙 北	除雪関係の申請をするため窓口に行ったところ、申請は11月末までであり、12月以降は申請できないと言われてしまった。11月時点では大雪になるかも分からないため、申請についてはもっと柔軟な対応ができないものか。	申請期限だけはお守りいただきたい。申請して実際には雪が降らなくて利用しなかった場合は、当然キャンセルや減額といったことができる。
15		ヤングケアラー調査の結果、9人が自分自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答したのことであるが、認識の違いや判断の難しさがあるのではないか。困ったことがあったら何でも相談できるような体制にしてほしい。	個人情報と家庭内のことで難しいが、情報を共有する場をつくり、専門家も交えた体制を整えていきたい。
16	中 仙	子どもが少なくなり、PTAなどの親の負担が大きい。中仙小と清水小の統合を進めてほしい。アプリでの子育て相談の利便性をよくしてもらいたい。	小学校の統合も段階的に考えている。要望があったことはお伝えする。市の母子手帳アプリは24時間受け付けしているので活用してほしい。
17		県道沿いには空き家が目立ち、景観にも影響する。対策を知りたい。	解体に対する支援制度は全部で七つメニューがある。内容を拡充しているので活用してほしい。解体後の土地を地域で活用する場合は9割補助している。
18		産後休暇が終わった後に速やかに復職できるよう、0歳児の入園受け入れ態勢を整えてほしい。	昨年から保育施設の空き状況を可視化できるようにしている。全ての保育施設で空きをつくる余裕はないが、市内のどこかに空きがある状況。利用環境をさらに整えていく。
19		秋田県で育成を推奨しているサキホコレは、地域メッシュの関係で作ることができない。今後、解消していくのか。	現段階では中山間地域では作ることができない。試験場で3年目の試験を行っており、結果次第で可能になることもあるので、試験場の判断を待つ。
20	協 和	拠点整備した場所などへは車がないと行けず、地域の世代交流館は拠り所である。豪雨時には避難所として、また、会合や行事で使っている場所なので存続してほしい。	明日に廃止するというわけではなく、管理運営を地域で行ってもらえないかということ。難しいのであれば指定管理において行う。
21		中淀川中村地区上流は災害が起きやすい。特別対策事業にあげてもらい、河川改修工事を早めてもらいたい。	緊急特別対策事業として雄物川の両岸改修は一旦終了したが、今後もかさ上げ等について国に積極的に要望していくので、地元の協力もいただきたい。
22		農業後継者の育成のために保育園などと連携し、農業の楽しさや土に触れる体験をさせて、小さい時から親しみを持たせるとよいのではないか。	法人で食育を行っており、小学校5年生を対象に稲刈り、試食、販売を体験させている。生育の過程など一貫した流れで学ぶことは必要である。
23	仙 北	過去に横堀地区の運動会が開催されていた。今後、部落対抗の行事を検討してもらえないか。	地域一体となった活動が必要な時期と考える。自治協議会で話題として取り上げ、地域予算を有効活用するなどし、協議検討いただきたい。
24		地域の問題を誰に相談すればいいのか。一番身近な市議会議員に相談するのがよいと思う。今後も市民のために頑張っていたらと思う。	ありがとうございます。一生懸命頑張らせていただきます。
25		キャンプで使うまきや着火剤をもみ殻を固めて作ったり、再造林モデル事業での木を使用したり、包括的に利用してはどうか。	事業と事業を結び付けて、総合的に循環するような取り組みの提案であり勉強になった。機会を見つけ提案していきたい。
26	太 田	給食センターや歯医者などの空き施設を再利用できるのではないかと。使わないのはもったいない。	その通りと思う。太田地域だけでなく、他地域でもさまざまな空いてくる。農業法人などに貸すこともできる。アイデアをいただきたい。
27		加工所があるが後継者不足で大変。昔から続いてきた直売が高齢化し自然消滅する。出せば売れるのだが、人手が足りず対応できない。	労働力を調整するなど政策的に何とかできないか。農業と商業が垣根を取り、連携していく必要があるのではないかと。



太田会場



仙北会場



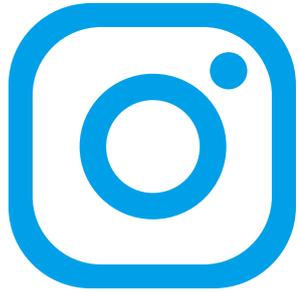
協和会場

【行政側からの回答】

No.	地域	いただいたご意見	担当課	回 答
1	大曲 (はなび・アム・藤木・大川西根)	封筒やマークシート鉛筆など会議ごとに配るのはもったいない。封筒も印字部分の位置を工夫し再利用できるようにしては。	総務課	封筒や鉛筆の削減、封筒の利活用については、行財政運営、また、環境面からも重要であり引き続き取り組んでまいります。 また、市では、各種申請やアンケートなどのオンライン手続きを推進しており、こうしたデジタル化を活用した取り組みも推進してまいります。
2		パワーコメリ・かっぱ寿司～大曲駅東口間の視覚障害者誘導用ブロックが破損しやすいため、材質を検討しては。	道路河川課	駅東線に設置されている点字ブロックは、主に「溶融式」の直接舗装に塗る比較的傷みやすいものであり、現在「貼り付け式」に順次変更を進めているところです。また、大型店舗前など車両通行の多い場所には、「埋め込み式」の施工を検討してまいります。
3		子どもの健康や予防接種について、副反応もあるので、ワクチンの有効性等の情報を積極的に発信した上で、各家庭の選択制にしてほしい。	健康増進センター	法で定められている定期予防接種については、有効性の観点からも接種を勧奨しておりますが、接種の有無をご家庭で判断いただくことに、問題はございません。 市では、出生されたお子さんに「予防接種と子どもの健康」を配布し、ワクチンの有効性や副反応等の情報を提供するとともに、ホームページや母子手帳アプリ等でも情報発信を行っております。
4		市役所からの電話表示が63-1111のみでどこの課からのものか分からなく不便である。(協議会など掛け持ちしており不便に感じてきた)	財産活用課	全課直通番号の外線発信を可能にするためには、電話交換機の更新に多額の費用を要することから、外線発信の多い部署などヘイターネットを活用した外線発信サービスの部分導入を検討しています。
5		災害時の要支援者については、いざ災害が起きたときに必要な情報であり開示できないか。消防団や民生委員には伝わっているのか。	社会福祉課	現在、名簿登載に同意された方の情報を掲載した要支援者名簿は警察、消防、担当民生委員および社会福祉協議会のほか、名簿の提供を希望した町内会や自主防災組織に提供しています。 災害など緊急事態発生時には、不同意の方も含めた要支援者の情報を必要に応じて関係機関に提供しております。
6		自主防災としてミニミニ防災教室を行った。非常食や炊き出しの補助を活用し好評であった。小さな部落ごとでやることは有効に感じた。	総合防災課	総合防災課に防災管理監を配置し、自主防災組織を主体に防災講話を行うなどの支援を行っております。今後も、地域におけるさまざまな取り組みを支援するとともに、より多くの皆さんから参加していただけるよう一層周知してまいります。
7	神岡	人口減少対策してると思うが、全国では大胆な施策や移住に手厚い自治体がある。大仙市ほどの程度、重要視しているか。	総合政策課	市では、各分野を代表する皆さんの意見を伺いながら、農業振興や企業振興、企業誘致、移住定住、結婚・子育て支援など、六つの重点施策を中心に人口減少対策を進めています。 こうした取り組みも一助となり、令和2年国勢調査での市の人口が国の推計人口を上回るなど人口減少スピードの緩和がみられました。 全国の事例も研究しつつ、引き続き未来への投資を含めた総合的な人口減少対策に取り組んでまいります。
8	西仙北	強首地区、大沢郷地区などは、水害時に避難できる避難所が旧西仙北西中学校体育館一つしかない。この避難場所を中心とした避難場所の充実を要望したい。	総合防災課	現在、旧西仙北西中学校体育館以外の避難場所の設置について検討しており、適切な避難場所の配置を進めてまいります。
9	南外	クマの出没がよくあり、急きょ児童の送迎を依頼する連絡が度々くるが、都合がつかない家のためにもバスの回数を増やし送迎出来ないか。	教育指導課	クマの出没を含む緊急な対応が必要な際は、各学校から一斉メールを配信し、保護者に迎えをお願いし確実に引き渡すようにしております。その際、児童生徒の安全確保のため、保護者が迎えに来るまで学校に待機できるような体制を整えております。引き続き、行政・学校・家庭が連携しながら安全な登下校に努めてまいります。
10		インターネットでの施設予約も増えている。市のホームページが分かりにくいところがあるので、スッキリしたものに改善してほしい。	DX推進課 広報広聴課	インターネットでの施設予約については、スポーツ施設の予約システムを現在構築中であり、令和6年度から運用開始予定です。その他施設の予約についても順次拡大したいと考えています。 ホームページについては、令和6年11月の全面更新に向けて準備を進めております。

Instagram始めました

#大仙市議会



#daisen_shigikai

フォローしてね

公式アカウント名
daisen_shigikai
秋田県大仙市議会



総務大臣感謝状を受賞

10月16日に開催された「総務大臣感謝状贈呈式」において、鎌田正議員が在職35年以上により、「市町村議会議員総務大臣感謝状」を受けられ、第4回定例会1日目の本会議開会前に古谷武美議長より表彰状が伝達されました。受賞おめでとうございます。



特集 ギカイのじいじ

「産業建設常任委員会って、どんなじいじよ?」

Q1 産業建設常任委員会はどこを所管しているの?

A 農林部、経済産業部、観光文化スポーツ部、建設部、上下水道局、農業委員会を所管しています。

Q2 委員会審査はどんなことをしているの?

A 本会議で付託された事件（議案や請願、陳情）を専門的かつ詳細に審査します。委員会で審査後、付託事件の賛成・反対を決め、本会議で委員長が報告します。委員会も本会議同様に傍聴することができます。



産業建設常任委員会の様子

Q3 本会議で行う委員長の報告ってなに?

A 委員長報告とは、委員会での審査を終えた事件が本会議の議題となったとき、委員長から審査の経過と結果（賛成・反対）について口頭で報告することをいいます。本会議では通常、委員長の報告は本会議最終日に行われ、これに対して質疑、討論、表決が行われた後、最終的な決定（可決・否決など）がなされます。



本会議場での委員長報告の様子

きかせて！あなたのミライ

大仙市の小学生が将来の夢を語るコーナーです。



たむら いちえ
田村 一恵 さん（協和小学校6年）

■協和バレーボールスポ少で父がコーチをしており、小学校1年生の時入団したのが始まりです。キャプテンとして、常にチームメイトには声をかけ、ミスをしてきつい言葉を言わないことを心掛けています。最後まで諦めない粘りのプレーをモットーに、2年連続で全国大会へ出場し、今年は全国大会ベスト8まで勝ち進みました。小学校最後の大会が3月にあり、全国大会「優勝」を目指しています。 ■次のステージでの目標や夢は、全国春高バレーへの出場、その後はコーチとしてスポ少の指導者になり選手の育成をしたいです。また、絵を描くことが大好きなので、絵を描く仕事に就き、バレーと絵描きの両立を目指し二刀流で頑張りたいです。

3月定例会

日	月	火	水	木	金	土
2/18	19	20	21	22 本会議 議案等上程	23	24
25	26	27	28	29	3/1	2
3	4 本会議 一般質問	5 本会議 一般質問	6 本会議 当初予算質疑	7 各常任委員会審査	8	9
10	11 各常任委員会審査	12	13	14	15 本会議 委員長報告等	16

※定例会日程は変更される場合があります。
変更内容は、議会ホームページでお知らせします。



市議会だよりのご感想などをお寄せください

市議会だよりのご感想や大仙市議会に対するご意見、ご要望などを次の方法により、議会事務局へお寄せください。

- ①郵送 ・宛先：〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号
大仙市議会事務局あて
- ②FAX ・番号：0187-62-8822（議会事務局専用）
- ③メール ・アドレス：gikai@city.daisen.lg.jp

こちらのQRコードからメールを作成いただけます。



議会の傍聴について

本会議および委員会は公開されており、傍聴することができます。傍聴をご希望の方は、議会開会日に、大仙市役所3階議会事務局窓口までお越しください。

請願・陳情について

3月定例会で審査される請願・陳情は、2月9日（金）までに提出されたもので、それ以降に提出されたものは、次の定例会での審査となります。

編集後記

副委員長
青柳 友哉

■令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた皆さまに心からお見舞い申し上げます。 ■大仙市では、平成27年より毎年1月23日に「シェイクアウト訓練」が行われています。これは、大地震が発生したという想定で、決められた時間に、市民が一齐に「体や頭を守る行動（机の下に潜るなど）」をとる防災訓練です。私も例年参加しています。1月2日に羽田空港で起きた航空機衝突事故では、炎上する日本航空機から乗客乗員全員が速やかに避難できました。これは乗員の日頃の訓練のおかげだそうです。ぜひ、皆さんも、シェイクアウト訓練等の防災訓練に継続的にご参加ください。



大仙市議会公式Facebookで議会の情報を発信しています

